

今月の

逸品

NO.29 2017.08



MUSEUM OF EDUCATION



### 弥生土器 壺

菅沖波遺跡（京都府京丹後市）出土

弥生時代前期（B.C.5世紀～B.C.4世紀）285mm×φ275mm  
 京都府の北部、菅沖波遺跡から出土した弥生土器の壺。第Ⅰ様式から第Ⅴ様式までの5段階で編年される弥生土器の第Ⅰ様式に分類される資料で、体部の最大径が器高にほぼ等しい扁球形を呈している。弥生土器の壺は、一般に口縁部・頸部・胴部・底部という名称で部位をあらわすが、この資料の場合、口縁部と頸部の境には段を削り出し、その段の中央に1条のへら描き沈線紋を施す。頸部と胴部の境についても、同様に削り出して作った段の上に、2条のへら描き沈線紋を巡らしている。菅沖波遺跡は、日本海に流れ込む竹野川の支流、鱒留川が形成した沖積地上に立地する遺跡だが、出土したのは採集資料としてのこの資料のみで、発掘調査は実施されておらず、遺跡の性格などは明確ではない。峰山盆地の中心集落遺跡と考えられる途中ヶ丘遺跡とは鱒留川を挟んで対峙しており、京都教育大学には、途中ヶ丘遺跡出土の弥生土器も所蔵されている。

